

う な ば ら 海 原

題字河原孝好先生

発行
平成 29 年 12 月 4 日
第 46 号
海原会
発行人 徳光和夫
編集責任者 小西洋也

〔海原会事務局〕
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 3-6-1 海城学園
TEL 03-6233-9631 FAX 03-6233-9641
ホームページ URL <http://www.unabarakai.jp>

第 96 回海原会総会

「海城学園 創立125年記念誌」を刊行 恒例事業 ゴルフ大会、見学会も活況

海原会の定例総会が6月10日(土)に海城学園講堂で盛大に開催されました。近年は若い参加者も増えてきて今年も300名近い卒業生が集まりました。総会では学園理事長および校長から学園を取り巻く環境の変化や進学状況さらに学園の新たな取り組みなどの報告をいただきました。徳光会長からは海原会のこの一年間の活動状況および新年度の予定などについて報告がありました。なかでも今回は学園の創立125周年を記念して海原会が制作した「記念誌」を総会に合わせて発行したことが紹介されました。多くの卒業生の方からの寄稿や聞き取りによって学園の歴史をまとめたもので、いわば生徒の目線からの学園史になっているところが特徴となっており、総会の場でも大きな話題となりました。また総会では恒例となった秋のゴルフ大会への参加呼びかけや見学会の案内もおこなわれ、徳光会長が「今後とも年代を越えた会員の交流、親睦はかかる様々な機会を作つてさらに海原会の活動を盛り上げていきたい」と挨拶を締めくくりました。カフェテリアに移つての懇親会も大いに盛り上がりしました。最後は親子二代の卒業生による万歳三唱で第96回海原会総会懇親会は幕を閉じました。また来年皆さまとお会いしましょう。

※海原会は皆様の会費で運営されております。



海原会

第96回

総会・懇親会

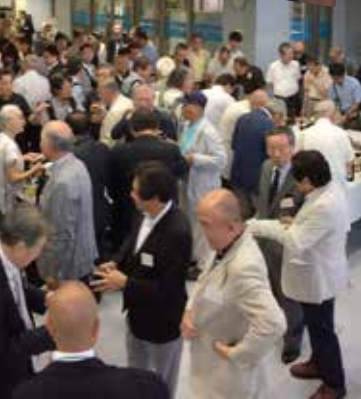
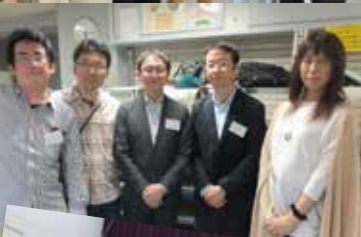


平成28年度決算・平成29年度予算

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

単位:円

収入の部	平成28年度予算	平成28年度決算	平成29年度予算	備考
永年会費	2,250,000	2,330,000	2,250,000	75名
年度会費	810,000	690,000	780,000	260名
入会金	3,260,000	3,150,000	3,210,000	321名
総会参加費	810,000	852,000	840,000	280名
その他収入	250,000	196,800	200,000	グッズ販売収入
広告収入	408,000	396,000	0	
寄付金	50,000	291,686	100,000	
雑収入	1,000	833	1,000	預金利息
合計	7,839,000	7,907,319	7,381,000	
支出の部	平成28年度予算	平成28年度決算	平成29年度予算	備考
会議費	100,000	302,658	200,000	
総会運営費	740,000	911,731	760,000	
会報印刷発送費	5,000,000	5,119,257	4,500,000	会報1万8千部
会報編集費	150,000	129,010	130,000	
通信費	100,000	232,778	200,000	
後援活動補助	200,000	200,000	200,000	吹奏楽団後援
慶弔費	20,000	21,891	20,000	
振替手数料	40,000	39,804	40,000	
賃借料	250,000	310,365	250,000	
事務費	100,000	65,913	70,000	
海原会賞	40,000	60,000	40,000	受賞者2名
広報活動費	10,000	0	0	
グッズ売上原価	200,000	163,078	160,000	
海城祭参加費	160,000	151,780	160,000	
寄付金	210,000	210,864	200,000	
修繕費	190,000	0	190,000	
記念品費	350,000	347,360	140,000	卒業記念品
旅費交通費(グッズ販売)	10,000	6,640	7,000	
通信費(グッズ販売)	0	4,688	5,000	
雑損出	0	2,990	0	
商品廃棄損	0	37,400	0	
法人税等	155,000	154,700	84,000	法人税・事業税・郡民税の合計
合計	8,025,000	8,472,907	7,356,000	
前年度繰越利益金	11,629,878	11,629,878	11,064,290	
当年度損益	-186,000	-565,588	25,000	
次年度繰越利益金	11,443,878	11,064,290	11,089,290	



今年も沢山の300名近い方々にご参加いただきありがとうございます。

います。学園も益々評価を高め、いまやこれが我々が通った同じ学校かと思うほどです。聞くところにより、今年も東大に50人近くが合格したということです。が、いまや学校では早稲田すら腕試しのようとして近年は東大とか大学ではなく医学部へ進学したい

記念誌、ゴルフ会 同窓の絆深める

という志をもった生徒が増えていくということ。若い後輩たちがこのように頑張つて学校の評価を高めてくれることで私たちも過分な評価をいただけるようになる

りました。理事長はじめ先生方のご努力のたまものと感謝しております。ありがとうございます。さて海原会総会も今年で96回目を迎えました。開成の友人に

いつもどうして海城はそんなに同窓会がまとまると盛んなんだ、その秘訣を教えろといわれるのですが、利害関係で動く現実社会と離れてここへ来ると昔の純

粋な気持ちで先輩後輩分け隔てなく話ができるということが良さなのかもしれません。海原会としては会報もそうですがホームページや色々なイベントや分科

海原会会長 徳光和夫

会などを通してそういった縦横の関係を深めるような形でこれからも微力ながら貢献できればと思っております。

かもしれません。が、案内のように昨年学園が創立125周年を迎えたことで海原会としてもなにかお役にたてることできないかというところで取り組んでまいりまし

た。このほどこういった125周年記念誌というものをまとめることができました。これは分科会のメディア会が中心になってまとめてくれたのですが、皆さまもぜひお手に取つてご一読願えればと思っております。学園の歴史とその時代時代の生徒がどのような生活をしてきたかがよく分かり本

当によくまとめてくれました。また海原会では10月には今年で6回目になります。ゴルフ大会を開催します。また秋には海城にゆかりのあるところを訪ねたりする

見学会というのも毎年行なわれています。これにはご家族の方も参加できますのでぜひ一度参加してみてください。このほか毎年学園祭にサロンを開設、同窓生が憩える場も用意しています。

このように海原会も色々な形で皆さま方の交流親睦が図れるよう努力しておりますが、ぜひ皆さま方からこうしてほしいこんなことをやたらどうかというような声をあげていただければ、また海原会の活動も広がると思います。よろしく願います。



平成29年度海原会総会の開催誠にありがとうございました。海原会

が各方面で活発に活動され、毎年このように沢山の会員の皆さま方が母校に足を運んでくださることに心より感謝申し上げます。会長はじめ役員幹事の皆さま方のご努力とご協力で重ねまして御

礼申し上げます。

この度海原メディア会の企画・編集・制作により「海城学園創立125年記念誌」が発行され

ございます。史実にもとづく興味深い記事、先輩方の思い出など内容豊富で読み応えある記念誌となりました。記念誌制作委員会

校の閉校について報告いたしました。平成8年の開校以来21年間、全寮制教育の実績を積み上げて参りましたが、東日本大震災被害

心より感謝申し上げます。卒業生一同はこれからも同窓会活動を続けて参りますのでご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願い申し上げます。

学校を取り巻く環境はますます厳しさを増しております。社会情勢の不安定化、教育環境や教育技術の急速な改革や変化、対公立学校、他私学との競争など課題が山積です。これらを乗り越えてゆくには常に正しい活

海原会の元気が母校元気の源

理事長 古賀喜博

ました。計画段階から原稿の収集や座談会の設定等、長い期間準備されましたご努力の成果で

の皆さまに衷心より敬意を表する次第であります。次に那須高原海城中学高等学

により閉校のやむなきに至りました。この間にいただきました海原会からの暖かいご理解ご支援に

力とエネルギーが必要となります。学校の底力、そして学校の根っこは卒業生です。海原会が元気になることが、母校元気の源です。急激に変化する社会の中でも海城は常にリスクを取りながら最高の教育を求めて挑戦を続けてまいります。母校の力強い発展には海原会の力が要です。今後とも変わらぬご支援ご協力をお願い申し上げます。



海原会の皆様、平成29年度海原会定期総会の開催誠に

うございます。心からお祝い申し上げます。

日頃、皆様におかれましては、先輩として、本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

最初に、今般、個人情報紛失に付きましては、皆様に多大なご心

「とがった」興味・関心に応える

校長 柴田澄雄

取り組み、学校としての信頼回復に努めて参ります。

さて、本年度4月8日には、新制中学第71回入学式を執り行い、331名の新中学1年生を迎え

は高津学年主任の人物をフォローして「素直で、最後まで諦めない学年」でした。その結果、大学入

格実績では東京大学49名、早慶が260名、医学部合格者133

別講座KSプロジェクト」が始まりました。グローバルな視点に立つて、社会科学系と自然科学系の垣

根を外した課題学習を提供するものです。その基本理念としては、

ることができました。本年度生徒数は、中学が990名、高校は975名、総勢1965名、学級数は中高合わせて48学級でスタートをしました。昨年度の卒業生

名など、立派な成績を残すことが出来ました。今後とも安定した成果がでるよう、教職員一同全力を挙げて邁進してまいります。さて、今年度から、新たに「特

①生徒の主体的学びを支援する機会と②生徒の多様な関心・意欲に応える場を学校として提供します。通常の授業の枠に収まりきらない、生徒達の「とがった」興味・関心に応える講座や学外活動（フィールドワーク）にもチャレンジする講座などを教員が自由に設置、実施するプラットフォームです。日頃、生徒たちには、どんな分野に進もうと、挑戦する勇氣と失敗にくじけないチャレンジ精神を持つこと、そして、お互いを比較するのではなく、先生や生徒、

そして地域の人々と繋がるのが大切だと話をしています。また他人の意見を柔軟に取り入れつつ、お互いを尊重し、理解して「多様性」を認め合うことも大事だと思います。大学や社会でも仲間と意志疎通を図りながら協力して仕事に取り組める生徒達を育てたいと考えています。どうぞ一層のご支援、ご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。本日はお招きいただき、誠にありがとうございました。

第6回海原会ゴルフ大会



悪天候の中45名が参加 羽根井氏(S41)が大会2連覇

第6回海原会ゴルフ大会は、10月13日(金)、前日より気温が8度も下がる冷たい雨の中、千葉大栄カントリー倶楽部で開催されました。悪天候の影響から当日キャンセルが9名も出る事態となりましたが、徳光ゴルフ会会長はじめ、昭和19年卒の小倉康弘さんから平成3年卒の井上由史さんまで総勢45名が参加、白熱した競技を繰り広げました。結果は羽根井泰郎さん(昭和41年卒)が悪天候にもかかわらずアウト39、イン38、グロス77というプロ並みの好スコアを出して昨年に続いて優勝、大会初の2連覇を記録しました。大会後は徳光会長を囲んでの懇親パーティーを開いてお互いの健闘をたたえあったり、次回大会での奮起を誓い合ったりして散会となりました。

ゴルフ大会の傾向としては、参加者の顔ぶれが定着してきましたが、残念ながら平成卒の参加の方が現役であることを割り引いても少ない事です。この大会も今年で6回を経過しました。開催場所を何処にするか、開催月日の再考、参加費・プレー費込みでの費用の再検討、新しくご参加戴ける方を増

やすための手立て等々、海原会ゴルフ大会としてどのような指針を掲げていくか、という。ゴルフ会委員も白熱した会議を繰り返してまいります。横の繋がりがばかりではなく、縦の繋がりがもたげられていきたいと思います。次回以降も一人でも多くの方のご参加を、心よりお待ち申し上げております。

大会実行委員長 昭和47年卒 石黒淳二郎

		OUT	IN	グロス	HDCP	NET
優勝	羽根井泰郎 (S41)	39	38	77	7.2	69.8
2位	吉岡 博 (S39)	45	50	95	24.0	71.0
3位	渡辺 浩志 (S35)	46	42	88	16.8	71.2

第六回海原会GOLF会コンペ出席者

昭19 小倉 康弘	昭36 林 昭策	昭44 鈴木 正廣	昭55 向後 一雄
昭32 鈴木 健義	昭36 山田 雅康	昭44 中野 孝雄	昭57 後尾 純平
昭33 池内 宏	昭37 菅野 文夫	昭45 田中 元博	昭57 谷本 憲明
昭33 西川 芳弘	昭37 鷺田 和雄	昭46 工藤 聡	昭57 坂本 明久
昭34 安藤 浩	昭39 丹羽 秀夫	昭47 里村 豊	昭57 岡田 二郎
昭34 小山 隆昭	昭39 吉岡 博	昭48 里村 甲斐	昭57 岡田 信男
昭34 徳光 和夫	昭40 三輪 優	昭48 角 秋野	昭62 古市 基治
昭35 鴨下 孝信	昭41 小吹 和夫	昭48 角 秋野	昭62 古市 基治
昭35 渡辺 浩志	昭41 羽根井 泰郎	昭48 角 秋野	昭62 古市 基治
昭35 浅倉 政行	昭43 永江 清	昭49 金子 大西	昭62 古市 基治
昭36 伊藤 邦正	昭44 岡川 島野	昭50 金子 大西	昭62 古市 基治
昭36 岡本 隆雄		昭54 樋口 稔洋	

見学会

房総の里山トロッコ テンコ盛りで大感激!

先ずは参加者にお礼申し上げます。良かったですねえ。ご家族揃って「楽しかった」が僅かながら実現できたことに感謝です。11月20日、紅葉はいつもより遅れて残念ながら見ることができませんでしたが、天気は上々、ご夫婦同伴とお子さんを含め総勢28名の参加です。

では出発! 房総半島の中央部を走る小湊鉄道は途中駅からS1車に乗り継ぎをして、終点まで時速20〜30キロほどかけて、里山の風を感じて走ります。トロッコ列車の女車掌さんはガイド宜しく、里山の見どころを車内放送で解説、車内では記念にと、演出用の車掌帽を渡され、ハイ・パチリのサービス。乗ること約1時間。乗りごたえも充分。その間、窓あき車両に移ってカメラアングルを捉え



る者や、いろいろ景色を堪能した。食事は養老溪谷温泉の奥座敷「滝見苑」まで迎えのバスで直行、用意された宴席に着きました。嬉しいですね。料理は名物のイノシシ鍋。炊き込みご飯それだけじゃありません。山の幸海の幸が次から次と持ってくる。ちよつと食べ切れないなあ。だて金目鯛丸ごと一匹の煮付け、どう言うわけか、この魚高いんです。最後に姫リンゴにチーズ羊羹のデザート。満腹だ! 宴会後は自由行動で、見ると一杯の散策コースと温泉浴。ところが宴会で出来上った残留組が予定にないカラオケバトルに熱中。機嫌。チョット番狂わせ。散策はバラバラで

海原会サロン 悪天候にかかわらず 1800名余が訪れる

「海城祭」に合わせて開設している「海原会サロン」、今年で8回目となりました。開設当初はこのような機会に母校を訪れる卒業生のためのたまり場を作ろうというの狙いでしたが、サロンを訪れる多くが海城を受験しようという子供たちを連れだす父兄であることから、いまは海城の歴史や各界で活躍する卒業生の紹介、同窓会の



数え大賑わいでした。学園の歴史や時代を作った海城人・卒業アルバムなど盛りだくさんの展示で大好評でした。さらに今年はTシャツ、パーカーなどのオリジナルグッズの販売をサロン内で行うなどの新たな試みをいたしました。台風の影響で一生懸命に頑張った生徒たちも後夜祭が出来ず文化祭実行委員の中には涙を流している姿も見え胸を打たれました。悪天候にめげず頑張った生徒たちにも拍手を送りたいと思います。サロンはこんな現役生の姿を間近に見られ交流もできるチャンスです。海原会サロン部会ではまた来年に向け新たなスタートを始めます。皆様の積極



更には養老の滝は集合時間までゆっくり時間が取れずいける人はいない人があった模様。温泉浴は元気のいい仲間がこ機嫌。チョット番狂わせ。散策はバラバラで帰りは送迎バスで始発駅まで送ってくれる大サービス、嬉しいじゃない

活動など、海原会として学園を側面からPRする形の展示にも力を入れてます。今年は9月15・16日両日出展しました。台風襲来の影響で2日目は13時で終了になつてしまい誠に残念でしたが、OBは言うに及ばず海城中学を目指す親子連れなど来場者は1,831名を



的な参加をお待ちしております。また皆さまのご意見などを参考に今年の反省などを踏まえさらににより良いサロンにすべく委員一同張り切っています。
(海原会サロン支配人 昭和41年卒 森山昭洋)

です。小湊鉄道線は全長約39キロで、送迎バスは約1時間かけて始発駅まで送ってくれたんです。良かったです。道中、元副会長の安藤氏のハモニカ演奏で里山にふさわしい唱歌を演奏、最後に校歌を口ずさみ、始発駅に無事到着までたく解散。満足のいく小旅行でした。このアットホームな感じは最高です。
(見学部会副会長 昭和27年卒 山本満男 記)
(写真 平成3年卒 塩田顕二郎)

成人を祝う会

母校で1月8日開催

海原会が「後援」している海城学園卒業生の「成人式」(今年は1月8日(月)に開催されます。昨年は対象年次卒業生の80%が参集した。講堂で恩師から祝辞を受け、校歌を斉唱し、カフェテリアに場所を移した懇親会では杯を傾けあいました。

海城が完全な中高一貫校になつてからずいぶん経つ。今年度成人を迎える卒年は基本的に全員が中高6年間で一緒に過ごした「同じ釜の飯を食った仲間」だ。たとえ成人式に振袖を

着た女子がいなくても、構わない。青春の汗と涙がしみ込んだ新大久保の海城で、成長したお互いをたえあい、気持ちを新たにすることが、彼らにとつて最も自然なことなのだろう。海原会では新成人のOBを祝福し、協力をしている。彼らの益々の発展に期待したい。(広報委員会)

新成人 平成28年卒生集まれ

この度第123代(平成28年卒)の成人式を母校で開催する運びとなりました。開催に際して、海原会から多大なご支援を賜り、新成人一同心より感謝申し上げます。
また懐かしい顔ぶれを見ることができののが楽しみです。同期たち皆の参加を待っています。
(平成28年卒 森素久)

学園創立125周年の記念誌

残部僅少

ご希望の方は海原会まで
お申込みください

海原会では学園の創立125周年を記念して「海城学園 創立125周年記念誌」を制作しました。これまで学校がまとめ発行した「60年史」、「100年史」などのいわば正史を縦軸として学園の草創期から現代に至る変遷をたどりながら、記念誌ではその時代時代の学園を取り巻く政治社会状況、世界の動向を加え、その中で生徒がどのような学園生活を送っていたか、各時代の卒業生にその時の体験談や証言を取材したり、寄稿戴いてまとめているのが特徴です。とりわけ昭和初期から戦中戦後、その後の混乱から復興、成長のいわば激動期に学園生活を送っていた卒業生の体験は現代の学園生活から



その意味では125年という歴史の重みを改めて知る良いきっかけとなるでしょう。また同じ海城という学校で学んでいるという同窓生意識を再確認するものともなりそうです。ぜひ手にとって一読ください。

なお記念誌は非売品です。ご希望の場合は海原会に一口2000円以上の寄付をしていただく送料無料で一部お送りいたします。海原会にお問い合わせください。

(広報委員会)

海原会グッズの販売

定番のTシャツ・

ポロシャツ・

帽子に加え

パーカーが新登場

海原会グッズはFAX、ホームページにて注文をお受けしています。氏名・送付先・電話番号・ご希望のグッズの品番・サイズ・個数をご連絡ください。

お支払いはグッズに同梱した案内に沿ってお支払いください。
※会報に同封されている振込用紙はグッズ代金の支払いには使用しないでください。

HP: <http://www.unabarakai.jp>
FAX: 03-62633-6641
※ホームページはトップページ右上の「海原会へのお問い合わせ」連絡より



A1



A2



A3



B1



服のサイズ目安

M 170センチぐらいまで
L 175センチぐらいまで
XL 175センチ以上

A1 Tシャツ

価格 1,100円
サイズ L XL

A2 ポロシャツ

価格 2,400円
サイズ M L XL

A3 ポロシャツ旧校章

価格 2,400円
サイズ M L XL

B1 パーカー

価格 4,000円
サイズ M L XL

C1 C2 キャップ 青 2色

価格 2,500円

C3 キャップ 刺繍

価格 2,600円

ラジオ相談50年 おさかな博士

杉浦 宏さん

すぎつらひろし（昭和22年卒）



「ナメタジに砂糖をかけたらどうなるの」「煙突の煙はなぜそれぞれ色が違うの」——子供たちからのこんな質問に答えるラジオ番組、「全国どこも電話相談室」というのを聴いたことがある方も多いのではないのでしょうか。子供たちからの難問珍問や専門家でも驚くような質問にその場で回答者たちが当意即妙で答える様子が大人にも受けて、昭和39年の開始から50年近くも続いた人気番組である。そんな番組で「おさかな博士」として活躍されていたのが、今回ご紹介する杉浦さんです。

「優しい語り口で人気」
当時、上野動物園の水族館（現葛西臨海水族園）に勤務していた杉浦さんが番組とかかわるようになったのは、魚や水生生物に関する質問でしばしば番組担当者から相談を受けていて対応していたところ、「直接スタジオに来て答えてください」ということでひっぱり出されたんです。はじめは「素人」として遠慮していた杉浦さんですが、質問に答える真摯な姿勢ややさしい語り口が評判となって番組の回答者であった当時の有名タレント教育者・僧侶の無着成恭氏や放送作家水六輔さんなど錚々たる人たちとならんで番組の顔となっていました。

時代とともに

「子供たちの関心の変化から家庭環境や社会環境と言った時代の変化も感じられました。ある時金魚が死んでしまったのでどうしたらいいかという質問があったんです。母親は生ごみで捨てるというらしいのですが子供は納得がいかない。私は君が大事にしている小さな箱に入れて公園の隅に埋めてあげてと答えたんです。昔なら庭に埋めてあげるといのが当たり前でしたが、団地とか庭のないところもありました。でも生き物が死んで可愛そうという気持ちに伝えてあげること、大人は子供たちの気持ちや訴えを大事にしてあげることが必要だと思います」と杉浦さんのまなざしはあくまでも心優しい。

もう一つの顔

そんな杉浦さんにはもう一つの顔があります。今日の水族館ブームの基礎を

築いた水族館の専門家としての実績です。いまは当たり前となっている透明な大きな水槽、その中の海水の管理維持方式を最初に考案し導入したのが杉浦さんたちなのです。

いまは都会のビルの中に水族館が造られるのも余り驚きませんが、海のない都会の真ん中で「海を見せる」というコンセプトの都市型水族館が登場したのは昭和27年にオープンした上野動物園水族館が最初でした。大学で水産学を学んでいた杉浦さんが教授から推薦をうけてこの水族館に入ったのはまさにそんな時でした。「全てが初めてのことばかり。魚が死んで水槽の魚が少なくなると築地に出かけて生きた魚を調達して入れるようなことをしていた」と笑い話のような苦労もありましたが、一番大変だったのが水槽の水の管理。

「当時水槽の水のろ過は砂を使った方式で、そのフィルターの砂をきれいに保つのが水族館の最大の仕事。毎日朝から砂洗いでした」と杉浦さんは当時を振り返ります。

水族館ブームの基礎づくり

何とかならないかと杉浦さんたちは砂に代わる新しいアイデアを求めて浄水場を見学、米食品会社の水処理技術を勉強し、新しい水処理方式を見つけます。そしてこの時ももう一つ杉浦さんたちが問題

視していたのが展示窓の大きさ。ガラスでは強度的にせいぜい1メートル四方のものが限度で、もっと大きな展示窓ができないかと目を付けたのが、当時風防ガラスといわれた合成樹脂だった。昭和39年に水族館がリニューアルオープンする時、この杉浦さんたちの新方式やアイデアが全面的に採用されます。「展示窓は縦1メートル横6メートルでしたが、当時最大でした」。今日のきれいな水と大きな水槽の水族館のルーツがここにあります。

今日の水族館ブームさぞかし感慨深いのではと聞いてみると「いまの水族館は娯楽施設になっている感じですね。見せることに力を入れ過ぎて。もっと命があるということを考えてほしいですね」。

見て聴いて気づくこと

長い水族館での実体験やラジオ番組を通して子どもたちとの対話、さらに最近まで続けていた大学での講義などを通じて杉浦さんがいま思うことは「生命というものの大切さ、そこに目を向けることの大事さ」だといいます。「知識でなく自分で体験して考えて感動して気付くこと。きれいな花が咲いていても気がつかない、鳥が鳴いていても聞いていないという人は多いです。重要なのは周りのものに目を向けて、気付くことです」。

（小西洋也 記）

われら 海城人

在野でクモ研究 日本の第一人者

新海栄一さん

しんかい えいいち（昭和42年卒）

「日本でナゲナワグモの習性を持つのは、コガネグモ科イセキグモ属に属するマメイタイセキグモとムツトゲイセキグモの2種である。いずれも熱帯系のクモであり、日本では本州南部以南に分布し、採集例はきわめて少ない。この習性の発見は、めつたに採れないクモを捕らえて、分布記録を報文に書く上で必要な標本を失うリス

で全く分からなかったのです。ある時ビンの中で飼育していたはダメだと思い切った庭に放して観察していたら2日目に枝先にぶら下がったクモが、第2脚から粘球をつけた糸をぶら下げて虫を捕獲しようと振り回すのを観察できたのです。このことを突き止めるまで7年かかりました」。現在日本にいるわずかに2種のナゲナワグモ

当然ながら大学でも、との思いもありましたが、「家業の写真館を継ぐために写真学校へいきました。そこで諦めていたらいまの新海さんはなかったでしょうが、写真館の三代目として仕事を続けながらもクモの採集、観察、研究をつづけ学会に発表し続けます。しかも写真技術を身に付けていたことは逆にその後のクモ研究に

りも「誰よりももうこれ以上はできない」というところまでやってきた」という実績の方が大事だったのかもしれない。今年、10年ほど前に出版した「日本のクモ」という図鑑を改めて整理し直し、新たに20種ほどのクモを追加した増補改訂版をまとめて出版しました。取り上げたクモは600種、網を張るもの、張らないもの、



クをおかし、あえて庭に放して観察することを決断した在野のクモ類研究家、新海栄一の勇気によるものである——「マメイタイセキグモについて書かれたウィキペディアの一文である。ここに書かれている新海さんが、実は海城の新海さんなのです。新種のクモを発見

中学時代から60年近くクモを観察し研究してきた新海さんにとって「これまで40種ほどのクモを見つけた」という輝かしい実績がありますが、このマメイタイセキグモは特別思い出深いクモです。「どんな網を張るのか、網は張らないのかそれま

の一種を新海さんが特定したのです。クモの研究世界では画期的なことでした。家業継いで在野で研究

小学校の時はクツワムシなどの「鳴く虫」に夢中だった新海さんがクモに興味を持ったのは中学の軽井沢の林間学校でできないクモに出会ったからといいます。担任だった関下先生が生物の先生であったこともあつて生物部に所属し、そこでクモについての研究が始まりました。高校時代も毎週のように尾瀬や八ヶ岳などに出かけクモの採集観察を続け、その成果を文化祭などで発表していたといいます。

大きな武器となりました。「お陰でクモの生態写真を撮りためることができました。」

集大成本を出版

日本のクモの専門家、研究者が集まる日本蜘蛛学会の会員数は現在300人ほどといえます。しかしクモを見てその場でこれは何々ちゃんと言えられる人は10人もいないといえます。新海さんはその中でも「二」を争う「クモ博士」なのです。しかも大学や研究室の学者ではない在野の研究者として世界的にも知られる存在です。新海さんにとっては学位や肩書より

爪が2本のもの3本のものなどに分類し、それぞれ写真とともにその分布や生態などについての解説をつけたものです。「これが私のおよそ60年にわたる研究の集大成のつもりでまとめました。これ以上はもうないです」という自信の作です。この本がこれからのクモ研究者のバイブルになることでしょう。

新海さんにとってクモの魅力とは何かに最後に聞いてみた。「忍耐力、クモは獲物を待つじつと動かないんです」。なるほどなにか納得できる気がする。

(小西洋也 記)

デジタル終活を提唱する弁護士

伊勢田篤史さん

いせだ あつし (平成14年卒)



終活という言葉はすっかりお馴染みになったが、デジタル終活ならどうだろう。伊勢田篤史さん(H14)はデジタル終活を提案する弁護士にして公認会計士だ。

伊勢田さんは中学2年のときにベルギーから編入してきた。今では帰国生入試を実施している海城だが、当時は帰国生自体が珍しく、編入試験で入学したのは中1が1名、中2が伊勢田さんの合計2名だったという。学校には「友人に恵まれ」すぐに慣れた。

帰国生で入学

当時の海城は、学校指定の青バッグを「かつこいい」と欲しがる女子校生が続出するほどのモテ期である一方、硬派のヤンチャ者もいた。担任の竹田先生は、教室の隅々まで目を光らせ、出る杭も出なさすぎる杭に対しても厳しく指導されていた。そんな中、伊勢田さんというと友人たちとオーソドックスに勉学をする毎日だったせいか、特に叱られることはなかったという。「海城では中庸を守ることこそを学びました」と伊勢田さんは笑った。

法曹関係に興味があり法学部を目指

したが、希望進路へは成績が足らず大学は慶応の経済へ。挫折感があったが、大学で再会した海城の同期に誘われて受けた簿記の授業に感動。公認会計士を目指すという目標を見つけた。その後、在学中に見事最年少での合格を果たした。

「当時の海城生は大学受験で燃え尽きる人も散見されましたが、自分は大学からスタートする気持ちを持てました。簿記に出会うことができたのは友人に恵まれたからです」

大学卒業後は公認会計士として実務を積み毎日だったが、この仕事を楽しくやっているのか？とある時ふと考えた。大企業を相手にドライに仕事することに物足りなさを感じ、もっと人対人の仕事をしたいとなった。そして、それは一番最初に夢見た法曹関係だと感じた。そこから一念発起して中央大学のロースクールに入學した。

弁護士と会計士、足のわらじ

「ロースクールでは優秀な同期と切磋琢磨しつつも励まされる日々。友人に恵まれました」と伊勢田さん。

卒業と同時に司法試験に合格。弁護士となり、今は、会計士と「足のわらじ」で業務を行っている。

ロースクール時代に感情面のケアに興味がある自分に気づいた。中でも、家族のヒストリーの精算の場である相続は自分を生かせる場だと思えた。そんなとき出会ったのが「デジタル終活」という言葉だ。「パソコンの中身をはじめとするデジタルデータを残してあなたは死ねますか？」この問いに対し、ほとんどが男性の海城OBはどのようなことをイメージするだろうか。

エッチな画像、昔の恋人とのやり取りなどといった家族に知られたくないデータもあるだろう。反対に、きちんと取り出して役立ててほしいデータもあるはずだ。顧客の連絡先、クレジットカードの自動振替情報、秘密の借入、投資商品の一覧など、家族が取り出せなければ迷惑をかけるしまうものは無いくらいだ。

現在はテレビやラジオでの出演や、セミナー講演、コンサルティングもしている伊勢田さん。デジタルデータを生きているうち

に整理しておく大切さやノウハウを説いている。

デジタルデータの整理を

終活というと年配のことという印象だが、セミナーには30〜40代の人も多く参加するという。生まれた時からデジタル機器に親しんできた彼らにとって、デジタル終活は財産を残す相續以上に、恥を残さないという尊厳の問題であり、よりリアルなテーマなのかもしれない。

「デジタル終活とはリスク管理です。海城で先生に怒られないように中庸を守るのが私にとってはリスク管理の第一歩でした。それが今に繋がっています。やはり、私はホントに人に恵まれているんですよ」

伊勢田さんは「人に恵まれている」と何度も語ったが、伊勢田さんの率直でみずみずしい感性が人を惹きつけ、道を開いているのだろう。デジタル終活に興味のある方は伊勢田さんが代表理事を務める日本デジタル終活協会のサイト

(<http://digital-shinkatsu.net>)が詳しいので参考にしてほしい。

(国井信男 記)

グラウンドに眠る歴史考1

改善高校と海城との間に戦前、十年間だけ存在した学校があった。名前を善隣高等商業学校（のち善隣外専門学校という。昭和二十年四月、二回目の東京大空襲で焼失したまま再建されなかったが、それは国がある目的で設立し終戦とともに役目を終えたからであった。総勢数百人におよぶ内モンゴル人留学生が学んだ予科、大陸へ派遣されるための訓練をする本科、設立者と海城の関係、軍事目的以外の実例と柳屋製原稿用紙と四回シリーズで紹介します。

グラウンドの東半分

体育の授業のときバレーボールコートが何で改善高校に食い込んでいて海城の土地なのか？疑問に感じたことは無いだろうか。



昭和二十二年 米軍撮影空撮

海城百年史にヒントがあった。終戦から三年目、古賀博常務理事が学校北隣の土地の所有者に土地譲渡の交渉を行い、取得後「がれきを解体しグラウンドに整備した」とある。がれきとは昭和二十年四月十二日夜の空襲で海城の北側にあった北海寮と、善隣外専門学校も焼けそのままになつていた廃墟を指す。

昭和二十二年米軍撮影の空中写真を見ると、現在のグラウンド部分の右半分に何かしらの構造物が確認できる。これが善隣外専門学校の跡だった。

蒙古学校
この学校に興味を持ったのはもうひとつ理由があつてそれは筆者の父は戸山

善隣高等商業学校

平成5年卒 高橋有仁

小学校の近くで生まれたことから祖母に生前当時の様子を聞くと「モウコガツコウがあつたよ」と言つたからである。正式名の善隣高等商業と呼ばないどころか、地域住民にとって海城よりインパクトの強かった蒙古学校とはどんな学校なのか。

一般には善隣協会が設立した大陸侵略のスパイ養成所と批判する向きがあるがそれでは当時懸命に勉強した青年たちに失礼なので公式資料を当たると、善隣高等商業学校およびその母体である善隣協会の発行した報告書が数点、このほかに善隣協会が中国大陸の蒙疆政権（現在の内モン



昭和二十二年頃のグラウンド

ゴル自治区）で官費留学生の選抜試験を行い、官費・私費合わせて数十名のモンゴル人留学生を受け入れていたことを著す研究論文があつた。国を担う人材

先にモンゴル人学生の様子を書くと、彼らは善隣高商の予科に所属し授業は毎週三五時間、うち日本語一六時間、英語五、数学八、物理化学二、体育・武道四時間であつた。予科を終了すると、本科へ進学したり他の大学や専門学校を受験している。彼らは蒙疆政権より委託された留学生や満州医科大学のモンゴル人依託学生でもあるから卒業後は医

大・医専、工学、農学と当時政情に先が見えないなか未来の国造りのために学んでいたのだ。

総理大臣自ら設立

一方本科の善隣高等商業学校は昭和二十年には入学者三百十名に達するほどの学校であつた。その母体である善隣協会を設立した林銑十郎（第33代内閣総理大臣）は元陸軍大臣で、当時外モンゴルが共産化したのを受け内モンゴルや新疆地域が赤化（せっか）するのを防がなければならぬと考えたことから、語学に素質のある日本の若者にモンゴル語を習得させ現地へ送り現地調査をさせるとともに、内モンゴルから留学生を招き入れ国の発展を担う人材育成に努めた。

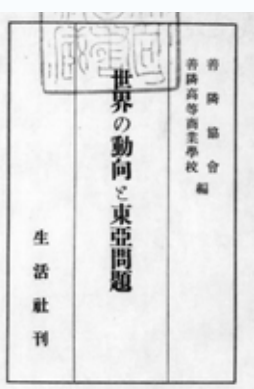
民間でありながら官費で賄われ官立学校に準ずる授業料であること、卒業生のうち5名は善隣協会に就職

できること、モンゴル語や支那語がメインでありながら戦時下も英語の授業があるなど好条件が揃つていた。それが昭和十年の第一期入学試験では五十名の募集に対し二十九名にしか合格を出していない。当校が求める学力に満たないからか、適性が重視されたのか何かしら卒業後の任務を履行できる人物を選別していたと考えられる。

海城から三名

そのような厳しい学校が隣にあれば海城生が進学先の候補に選んで不思議では無い。卒業生の最終学歴で調べたところ、昭和一三年から終戦までに三名の生徒が入学していることがわかつた。そのうち一名は海城の「東組成績優秀クラスの生徒だった。

※海城OBで当学校についてご存知の方おられましたら情報をお寄せくださりますようお願いいたします。私たちのグラウンドから大陸へ渡つた青年たちの歴史に陽を当てられたいと存じます。



参考文献…「善隣協会と近代内モンゴル学生教育」祁建民2009、「世界の動向と東亜問題」善隣協会・善隣高等商業学校編 生活社1941、海城百年史1991

毎年11月15日が待ち遠しい。猟期の開始日である。真冬の夜明け前、川辺の鳥屋でひたすら鴨を待つ。五感を研ぎ澄まし、どこから鴨が飛来してもいのように集中する。ということかつこ

狩猟と犬と日本と

昭和56年卒 杉本尚之

「五感を研ぎ澄まし集中」という表現はあながち大袈裟でないのだ。撃ち落とした鴨を愛犬ラブラドル・レトリバーの「北斗」と「佑」が回収する。人と犬の共同作業だ。生命を戴くのであるから、獲った鴨やキジは、自分で内臓処理をし、調理して鍋や燗製に。「究極のアウトドア」である。自然の中で、仕事とは無関係の年代を超え



た猟友との人間味あふれる会話も時を忘れさせる。

狩猟を始めて7年目。きっかけは、「本能を活かすことが犬の一番の幸せである」という、我が家の犬のブリー

ダー氏に誘われて。ただ、狩猟ができるようになるまでには長い道のりが待っている。銃猟の場合、まず、猟銃所持許可が必要であり、警察での面談→法令試験→実技試験を経て、ようやく鉄砲を所持できる。この段階でクレー射撃競技は可能だが、狩猟をするためには、狩猟免許試験に合格しなければならない。猟銃所持という非日常の世界に入るのに最初のステップがあり、さらに猟殺生行為であることがもう一段高い壁となり、狩猟まで辿り着く人は多くなく、狩猟人口は激減している。私が海城中に入学した1975年に52万人いた狩猟免許保持者は2014年には19万人（銃・わな・網猟のべ免許数。実数15万人）、



60歳以上の構成比が66%。今55歳の私は若手である。毎年、クマの出没やシカ、イノシシの食害について新聞等で話題になるが、動物の生息エリアに人が入り込んだこと、そして狩猟者の減少が

大きな理由と言われている。猟友会の狩猟者育成活動や国の認定鳥獣捕獲等事業者制度などが功を奏し、近年は微増に転じているものの、年齢構成からみて10年後にはさらに高齢化は進む。狩猟者自体が絶滅危惧種となっているのだ。

「狩猟者は森の番人」であり、鳥獣の数を適正にコントロールすることで人と動物が共存可能な自然環境を維持してきたのだが、今、崩壊の危機にある。バーチャルの世界で楽しむ若者をいかにリアルの世界に引き戻すか、狩猟人口の問題だけでなく、マクロの目で俯瞰すれば超高齢化社会へ邁進中のこの国が抱える諸問題解決の糸口になるかもしれない。……などと、つらつら考えていたら、またマガモの群れが頭上を飛んで行ってしまった。

昭和36年卒の同期会「36会」は9月27、28日の両日、栃木県・鬼怒川温泉への1泊2日の旅を催行しました。36会として遠足の旅行に繰り出すのは、東日本大震災の後、東北旅行以来のこと。今回は有志18人が参加。早朝、上野駅前に集合し、バスで出発。昼過ぎ、鬼怒川ロイヤルホテルに到着しました。

「錦秋の候」というにはまだ早かったとはいえ、秋の気配が漂う山々の佇まいはなかなかのものでした。ホテル近

くに通称「揺れる吊橋」の「鬼怒川楯岩大吊橋」があります。全長140メートル、下を流れる鬼怒川までの高さが40メートル。幅が2メートルほどの頼りなげな橋は、人が歩くだけでユラユラと揺れる。「ここまで

来て怖気づいたとあつては、敵前逃亡のそしりを免れず」と勇をふるって渡る者もいましたが、よく見ると足は小刻みに震えていました。対岸からさらに

山峡の夜は更けて

昭和36年卒 瀧本 喬

台から見下ろす風景は絶景ポイントの名に恥じないものでした。

夜の宴の後、ホテル内での2次会、ある者はカラオケに参加、ある者は麻雀

卓を囲み、また、ある者は談論を楽しみなど、山峡の夜は更けました。それにしても全員、「枯淡の心境」とは無縁の意気軒昂ぶりでした。こうした旅行に参加できる健康を喜び、日ごろ、36会の運営に尽力してくれている山田雅康会長はじめ、赤石浩君、杉山紘千佳君、そしてプロ顔負けのフットワーカーで今回の旅行の段取りをしってくれた通称「イベント催事リーダー」の齋藤邦雄君に改めて感謝する次第でした。翌日は昼過ぎにホテルを出発。夕方、上野に到着し、「また旅行を楽しもう」と散会。それにしてもみな元

気なことでした。



リオのオリンピックで、日本が金メダルをとった種目にバドミントンがあります。

現在は海城高校で主力の運動部として名を連ねているバドミントンですが、その前身となる同好会創立時のエピソードをお伝えします。

昭和47年に海城高校に入学した私たち4年6組の仲間、何か新しいことをやりたいと、当時サークルのないバドミントンに目をつけ先生方のご承認を頂き同好会を設立しました。同好会の顧問は、当時現代国語の教師であり、今や「尾木ママ」として全国的に有名な尾木直樹先生になっ



ていただきました。先生は授業でも非常に熱心にご教授くださいました。同好会活動でも温かくご指導いただきました。担任の福島先生にも名誉顧問になっていただきお世話になりましたが、同好会が後にバドミントン部に昇格し都大会で上位の成績を収めるまでに成長することとなったのは、福島先生のご尽力の賜であることは言うまでもありません。因みに福島先生は同好会の名誉顧問兼、コーチ兼お茶汲み?にもなっておりました(当時の記録より)。

バドミントン同好会創立時のエピソード

昭和50年卒 仲村弘之

の活動実績は悲惨なものでした。後発のサークルだったため練習場所がなく、屋内スポーツにもか

かわらず、4号館と5号館の間の細長い屋外通路が練習場所でした。屋外のため、雨天は勿論のこと強風も吹く中で、当初はただネットもないままに打ち合っていました。その後、練習場所を外部の公共の体育館などに移し行っていたと思います。

5年生になったときに、体育館

などの整備してくださったことは、とても嬉しく、吹きさらしの通路で一生懸命ラケットを振って練習した記憶があります。海原会の総会に何う度に、この場所が残っているのだなと思います。バドミントン同好会メンバーの共通の思い出の場所になっていると思います。

一部の経験者に頼りながら、活動費も十分な練習時間、体育館の使用許可もなく、何もかもが手探りで動いていたあの頃がとても懐かしく思い出されます。

あれから40年以上が経ち、私たちは還暦を迎えます。エピソードを知る者も少なくなりましたのでこれを機会にと披露させていただきます。海原会の益々のご発展を祈念しご挨拶とさせていただきます。お読みいただきありがとうございます。

先輩のおごり今むかし

昭和55年卒 堀川一彦

者であり小銭も多少持ち合わせていたので「チェリオ」と「菓子パン」をかぶりつくことは当然のような顔をしていた。そして清涼飲料水

の後には必ず喫茶店に寄る。よく面倒を見てくれた先輩が「ホットコーヒー」や「スパゲッティ・ミートソース」などをおごってくれるので

ある。20人から30人分である!! 給与生活者に

や菓子パンを平らげた後、新大久保の駅に散るのである。

遠征に出た時は引率の先輩のサービスがすごかった。練習試合

とつてはこの出費はひどくこたえられたと思う。しかし先輩はいつもそうしてくれた。卒業して私はある内科小児科の先生と知り合

いになったが、この方はもともと海軍の軍医であられた。慶応の医科をでられ卒業後すぐに入隊、中尉となられた。海軍では先輩が後輩たちにおごることになっているらしい!? 元海軍の先生も私たち学生風の青年子女たちによく自腹でおごってくれていた。そういう海軍の習慣らしかった。しかしこのシステムはその後戦後の民主主義の制度のもと、受益者負担つまり自分の分は自分で支払うことにあらためられた。

永年会費納入者

(敬称略)

平成20	増野 正高	昭和32	島田 清治
(三・三万円)			
平成23	富塚 大樹	平成27	瀬川 堅心
昭和48	山田 康雄	平成25	藤崎 隆
平成29	奥田 義定	平成15	伊崎 聡志
平成26	浅野 貴文	昭和34	徳光 和夫
平成28	本橋 澄明	平成09	(追加三万円)
昭和41	花岡 琢也	石田 一馬	
昭和25	横山 好郎	(五万円)	
平成29	横澤 伸介	昭和55	針ヶ谷充啓
昭和42	関戸 純夫	昭和47	豊仲 寛哉
平成28	中里遼太郎	平成05	加藤 陽三
昭和50	萩原 稔	昭和33	石塚 昌克
平成28	野上 正行	(三・五万円)	
平成29	板橋 諒	昭和36	高杉 春正
平成23	木了 龍一	昭和52	(四万円)
昭和35	田中 宏樹	昭和52	鈴木 義隆
平成29	佐々木悠介	昭和52	鈴木 義隆
(三・三万円)			
昭和30	松本 重瀬	昭和52	鈴木 義隆
昭和47	花里 豊	昭和52	鈴木 義隆
平成26	村田 和久	昭和52	鈴木 義隆
平成28	村田 尚也	昭和52	鈴木 義隆
昭和42	高梨 勇三	昭和52	鈴木 義隆
昭和27	幸田吉三郎	昭和52	鈴木 義隆
(五万円)			
平成28	遠藤 大地	昭和17	増田 晴男
平成12	小関 隆善	(追加一万円)	
平成29	内海 貴彦	平成29年4月から	
(三・六万円)		平成29年11月まで	
		(受領日順)	

永年会費を納入されている方にも、封入作業の都合で、会費の振込用紙が同封されていますが、ご承知ください。



卒業生のキズナは永遠

法人事務局 平成30年 塩田 顕二郎
(那須高原海城中学校・高等学校元教頭)

「那須海城のその後を書いてもらえませんか」——私は先号ですっかり最終回のつもりでいたのですが、『海原』の編集委員の方からお声をかけていただきましたので、今後機会があれば、那須キャンパスの様子や那須海城卒業生の活躍などをお伝えしていきたいと思っています。

那須高原海城中学校・高等学校が3月末に閉校し、はや半年以上が過ぎました。おかげさまで、閉校後の事務

処理も順調に終わることができ、現在那須キャンパスには在学時を懐かしむ卒業生がキャンパスを訪れることもしばしばです。

さて、カタチとしての母校はなくなれど、卒業生のキズナは永遠ですので、同窓会総会が今年も例年通りの9月に海城中学高等学校カフェテリアで開催され卒業生が集いました。

この総会から1週間後、開校1年目に中学1年生で入学した原隆さんが江戸川橋のギャラリー「TABOO CITY」と題された個展を開催しました。彼は、高校卒業後書道の道に進み、カナダの大学へと進学。書道から絵画、粘土彫刻へと世界を広げ、アリゾナ州立大学院で博士号を取得。カナダやアメリカを拠点にプロとして活動しており、日本ではじめて開いた個展でした。

原さんは2010年冬に一時帰国した際、那須で在校生と1週間ほど寮生

活を共にしながら「夢」という大きな作品と一緒に造り上げました。しかし、残念ながらその大作は3月の震災で落下し壊れてしまいました。今後も北米と日本を行き来しながら活動を展開していくという原さん。彼の作品がふたたび那須キャンパスに飾られる日が来ることを願っています。



富士登山500回越えのレジェンド 大貫金吾先生の著書寄贈

昭和37年卒 鷲田 和雄

母校海城高校をはじめ、駒場東邦高校、立教高校で数学の教師をされた大貫先生は、昭和23年に海城高校を卒業された大変優秀なOBの一人。海城在学中、数学は常にトップの成績で、誰も解けなかった問題をただ一人解答するというエピソードが残されています。

42年間という教員歴もさることながら、50年間におよぶ登山家歴をお持ちで、なかでも、1955年の初登頂以来、2003年には530回を数える富士登山を達成。新聞やテレビにとりあげられるほどの記録となりました。しかし、昨年10月、こうした記録を残されつつ、

享年87歳で他界されてしまいました。

大貫先生の富士登山の記録は、自らによって『限りなきオマージュ富士山400回までの登頂記録』と『限りなきオマージュ畏敬・憧憬富士山登頂の記録 第1回から500回まで』という著書にまとめられています。

海原メディア会および、S37年卒大貫先生を囲む有志堀、伊藤、前田、上野、堀内、狼、西山、鷲田では、これら2冊の著書を学園に寄贈しました。

時には生死を分けた冬季富士登山の過酷さなども記されたこれらの著書は、富士登山のレジェンドとも呼べる大貫



先生の足跡を知る記録というだけでなく、富士登山の格好のガイドブックとなると思いますので、ぜひ一度、手にとっていただければ幸いです。

おばば お疲れ様会

平成29年卒

岡本 浩太郎



海城の校内売店の「おばばこと、内田直枝さんが7月20日に引退されました。これに先立ち、7月2日にOBが集い「お疲れ様会」を開催しましたので報告します。

【そもそもおばばは？】

ひとことと言うと校内売店の看板娘です。しかし、ただの看板娘ではありません。御年90歳超、なんと現役生活60年以上、どの教師よりもどの職員よりもこの学園を見守ってこられた方です。

【なぜおばばなの？】

そう呼ばれ始めた時期には諸説ありますが、既にご本人の記憶も定かでない、昭和50年代には定着していた模様です。初期は少し違った呼ばれ方だったようで、その後愛嬌まじりにアレンジされ「おばば」は不動の呼称となりました。

【お疲れ様会開催！】

教師以外の職員等が退職される際、このような会が催されることは稀かもしれませんが。この度はOB50人以上が校内に集まり、「一部構成で行いました。

・第一部 講堂編 おばばの現役時代を年表で投影し、時代の流れに沿って解説した後、OB各世代の代表よりねぎらいの言葉をお送りしました。中盤では懐かしい写真の数々をエルビス・コストロのSong(原曲の邦題は「忘れじの面影」)にのせて投影。O&Aコーナーでは呼称を含め長年の疑問を直接ご本人に投げ、最後は内田先生より花束を贈呈し講堂が拍手に包まれました。

・第二部 カフェテリア編 会場をカフェテリアに移しての会食ですが、序盤から記念撮影を求める列ができ、各世代とも

思い思いのショットで おばばを囲みます。更に、途中でおばばが史上初とも言える自作名刺を取り出されたことで、今度は名刺交換を求める列ができ、食事がなかなか進みません…。最後の挨拶ではややしんみりしましたが、参加者の皆さんのおばばへの思いも多々垣間見える、和やかな会となりました。

【みんなおばばの子】

OBになっても中年になっても売店に寄れば飴玉をくださったおばばは、昭和中期卒生にはお母さん、以降はおばあちゃんのような存在です。この日、自作の小物アイテムを全員にくださった時は、会に先立ち私達のことを思い手作りする姿が浮かび、胸が熱くなりました。引退後は温泉旅行を楽しみたいとのことですが、時折立ち寄って現役生やOBの元気な姿をご覧いただけることを願っています。



同期会 クラス会 だより



湘南海原会 第42回定例会 近郷問わず 参加大歓迎

湘南海原会はJR茅ヶ崎駅ビル内の「快飛」で第42回例会を開催いたしました。今回は昭和19年卒業の福田大先輩を始め、20年卒業の生田大先輩、26年卒業の小竹大先輩をはじめとして、グッと下がって昭和37年卒業の同窓生鷺田さん今回初参加の同じ37年の杉本さんそして、私の併せて6名の参加で行われました。いつもながら親子ほどの年齢差の大先輩の包容力の中で和気藹々の懇親会となりました。名簿メンバーは37名を擁し



ておりましたが、残念ながら時節の移り変わりと共に物故される大先輩の方々もおいでになり、又健康状態を気遣う方も増えてまいりました。

会の性質上卒業年度幅が数十年となる同窓会の宿命かもしれません。ともあれ、皆さんの健康維持を確約して次回11月24日の43回開催の再会を約して散会しました。会では近郷近在を問わず幅広い海城中学、高校の卒業生の方々の出席を大歓迎いたします。よろしく御願い致します。(昭和37年卒 佐藤誠二)

海原三五会

卒業後60年に向けて

11月1日は、海城学園126周年記念



日でした。この日(11月第一水曜日)は、我々の定例同期会の日でもあります。今年も、池袋サンシャインビル59階「天空の庭・星のなる木」に24名が集まりました。

6月の「海原会総会」で、32年卒の先輩たちが卒業後60年表彰をされたのを見て、これは大変なことだと思いました。我々は、あと三年後。東京オリンピック、パラリンピックの年が60年に当たります。今年は、そのことを意識して同期会の案内をしました。

最近では、体調不良や介護などの理由による欠席者が増えています。「今後連絡不要」に丸がついてくる数も増えてきました。そうした中、集まった24名は大きな声で校歌を斉唱し、2020年にはできるだけ多くの仲間が集まることを願って、お開きとしました。(小池洋三)

海原三六会

70代の半ば、傍観者ではおれない

6月10日、今年度総会を母校の海城学園で開催しました。今回は、遠路はるばる盛岡市から出席してくれた木下絢君をはじめ27人が出席。木下君は、現在も岩手県建設業協会の会長として業界をけん引する重鎮です。とにかく今は「岩手の東日本大震災からの立ち直りを見てほしい」とのことでした。「遅ればせながら70代に入って2人の孫を持ちました」というのは会長の山田雅康君です。そこで父親になった息子に対する親としての思いを「息子への最後の手紙」につづたといいます。「君を悪く扱う人を気にするな。ただ、君に良くしてくれる人を大切に、その恩を忘れてはいけない」「多くの成功者はあまり勉強していない。これは勉強しなくても成功できることを



リカケをください」と注文した。目の前に置かれたのはモリそばとカケそばが一人前づつ。勝手が違うと首をかしげていると、同行した知人、「モリとカケは別物だよ」。「最近では森友学園とか加計学園が注目されているけど、どちらも真実を覆い隠そうとする動きがあつて腹が立つていた。何十年も前のモリ、カケの話を思い出したのも、そのせいだよ」と重武君。こんな状態が続くと、世の中、どうなるか分かったものではない、という重武君の指摘に、出席者全員、納得した次第です。「70代の半ば、オレたちも傍観者ではいられない」という思いを新たにしたい今年の総会でした。(瀧本 喬)

昭和41年卒 同期会

台風にめげず古希の会

今年で70歳になるのを機に一度皆で集まろうと10月24日、明治記念館で5年ぶりの同期会を開催しました。当日は季節外れの台風の直撃かと前日まで心配されていましたが、我々の勢いに負けてか、幸い台風も早めに通過してくれて大事に至らずおよそ70名の仲間が集まっていたと聞き、70歳は古来希なりなどという年ではないが、人生70も過ぎれば何が起ころうとも不思議はない年代、皆で集まるのもこれが最後になるかもという企画段階の心配も開いてみれば全くの杞憂となりました。逆に久しぶりの同期会で若き時代を思い出しそれぞれにまた元氣を取り戻す良い機会となったようだ。しかも臨席いただいた恩師の山西顕六先生、菅野一雄先生、大澤英夫先生、半澤隆憲先生から「70なんてまだまだ子供」と励まされ、出席者全員、恩師に負けず



頭張らねばと改めて思うのでした。という訳で「次回はいつだ」「毎年やろう」という皆の期待の高まりに幹事団はまた頭を悩ますことになりました。今回出席できなかった人もまたの機会を作り出すのでその時はぜひ集まりましょう。

(代表幹事 森山昭洋)

昭和44年卒 6組クラス会 毎秋開催 16名が参加

10月21日、海城学園内カフェテリアにてクラス会を開催いたしました。昨年卒業以来初めてのクラス会を行い、毎秋に開催することとなり、今年は16名の参加を得ることができました。初め

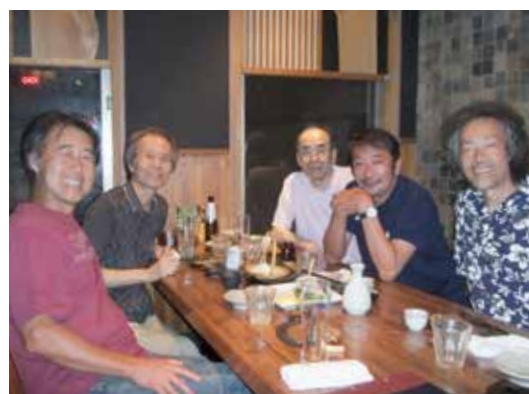


て参加の方も3名おり、当時の面影を思い出すのに苦労した方もおりましたが、皆元気に青春時代の話に花が咲きました。しかし残念ながら昨年代表幹事を努めた小田君が8月に旅立ってしまった、クラス会の冒頭で黙祷を捧げ、献杯いたしました。

今年は小林君・草野君・和田君の三人が幹事を引き受けてくれ、カフェテリアの一次会、多国籍街に変貌した新大久保で二次会を行い、大いに盛り上がり散会いたしました。来年は一柳君・浦江君・加藤君の三人が幹事を引き受けてくれました、来年の秋も楽しみです。6組で未だ17名の方の現住所が不明です、もしこの記事をご覧になってお気付きの方は幹事等に連絡をお願いいたします。(山口 清)

昭和50年卒 10組有志の会 卒業42年 還暦迎える

7月17日、昭和50年卒10組の有志の会を開きました。担任をされていた故梅津昭二先生を偲ぶために、数年前に集まった5人。以来毎年夏に旧交温めています。海城高校が今のような全国屈指の進学校ではなかった時代、秀才でも優等生でもない我々はそんな母校に救われて楽しい高校生活を送り、十分過ぎる伸びしろを残して卒業しました。3人が技術系研究職、2人が医療職(医師)に就いてそれぞれのポジションで努力して、それなりの職責を果たしながら社会貢献して還暦を迎えました。雰囲気は高校時代の休み時間や放課後と変わらず、あの頃の思い出話と毎年更新される近況を取り留めなく話してお互いの息災を確認し、来年の再会を約束して解散しました。



卒業から40年以上経った今、素晴らしい仲間との出会いの場を与えてくれた母校に改めて感謝しています。

参加者…石井豊太、五味良勝、杉山昭彦、中川勝博、田原順雄(記)

昭和57年卒 6組クラス会 変わるもの、変わらぬもの

懐かしの母校を目指し軽やかに歩を進める。あれ？クールミントの匂いが無いぞ?? あっ！ロッテの工場閉鎖。街の大きな変化に驚きながら、懐かしの母校に歩を急ぐ。遅刻だ！鉄門がしまり、柔道場でビントの嵐！急に学生時代の思い出が鮮明に脳裏に蘇る。息を切らして坂を登りきり、中高同期のNくん経営する海城学園カフェテリアに汗ダクで走りこむ。ギリギリセーフ。と、思いきや恩師山西先生より一言。「海軍予備校生は5分前集合が常識！連帯責任全員正座反省！」。5月27日、学園カフェテリアで昭和57年卒6組クラス会を開催しました。乾杯発声は、ザ・レモンティーのボーカル

で声のかいM君に。その後3時間、卒業後社会に出て35年のパワー大爆発！熱い会話は途切れる事がない。山西先生から、アメリカに交換留学生を引率して行った話、那須海城学園開校までの苦労話、我々の修学旅行時代、五島列島福岡江島で遊泳禁止の中、海水浴を楽しんだ逸話など、沢山のお話をゲット。

今回から、海城中生で山西先生の教え子は一緒に参加して昔話を華を咲かせて戴きたい企画を実施中。坂本君(野球部11組)が参加。ありがとう！甲子園予選、荒木大輔率いる早実に勝てたはずと言う秘策を暴露。酒宴が更に盛り上がった事は言うまでもない。最後に、我がクラスの誇り愛すべき巨漢のH君の一本締めで。その後、馴染みの高田馬場の店に皆自然と足が向いていた。街の景色は大きく変わったが、海城魂揺るぐ事なし。変わらぬ友情を再確認する事になった。来年に更に楽しみである。

参加者…山西顕六先生、坂本海中11組、荒川、井坪、野澤、原、松島孝、師尾、山中、富岡(記)



昭和62年卒 同期会

卒業30年記念の節目

我々は今年で卒業して30年になりました。例年は3月に同期会を実施していますが、海原会総会では卒業30年の節目に卒年表彰があるので、今年はそれに合わせて集まることにしました。



今年は125年記念誌が発行されましたが、中心メンバーとなったのが、海原メディア会で活躍する鈴木武道さんと松長哲聖くん。総会の入口では同期が記念誌の配布を手伝いました。

卒年表彰の記念品を受け取ったのは矢島透くん。MLの管理をしてくれている同期の要です。総会の中休みでは徳

光和夫会長と一緒に記念写真をパチリ。良い思い出になりました。

高田馬場に場所を移し、木村直毅先生、福島羊一先生、中村久憲先生をお招きしての記念同期会。今までのご恩に感謝し、みんなで寄せ書きをしてお送りしました。なんだか高校のときのままではしゃいじゃつてごめんなさい。

残念ながらこの日を迎えるまでに旅立った恩師や仲間もいますが、これから一日でも長く交流していきたいと思えます。(国井信男)

平成2年卒 6年10組

茂木先生の「ご卒業を祝う会」

6月15日、岡村正哉くんが発起人となり、平成2年3月に卒業した6年10組(茂木組)の有志で、41年に渡る教員生活をご卒業なされた茂木先生の「先生ご卒業を祝う会」を開催致しました。茂木先生には昭和の終わりから平成にかけての2年間、理科コースでの担任としてご指導頂いたのみならず、高校卒業後も、大学さらに

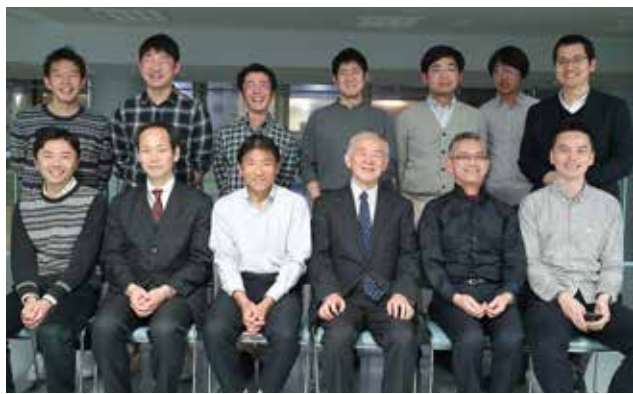


人生の進路まで親身に指導頂いた者も多く、会では、ご卒業祝いの言葉と共に、あらためて多くの感謝とお礼の言葉が舞いました。先生は、この3月末まで那須海城学園の最後の校長として重責を担われた後、4月からは海城学園理事として新大久保にお戻りになられました。まだまだ、学園運営について、いろいろな構想をお持ちのこと。お身体労わりつつも、今後の益々のご活躍を、6年10組生徒一同、祈念しております。参加者：茂木先生、岡村正哉、柏崎、古場、澤本、田嶋、永末、蓮見、長谷川、溝渕、湊、深山、湯沢、樵(記)

平成14年卒 学年同窓会

それぞれの分野で活躍

1月21日に毎年恒例の学年同窓会を母校カフェテリアで開催しました。今年は村上先生、立川先生、鴨田先生、福島先生と多くの先生にご参加いただきました。近況報告では、独立や起業で新



たな世界にチャレンジする人、行政や研究の分野で社会貢献を目指す人、企業においてマネジメントとして活躍する人など、卒業から15年が経ちそれぞれのフィールドで活躍する話を伺うことができました。学年同窓会は、今後も毎年1月に開催予定です。在学時にはあまり話した事がなかった人とも意外と話が弾むものなので、是非ご参加ください！案内の葉書きやメールが届いていない方は、kaijo2002@googlegroups.comまでご連絡ください。また、Facebookに「海城2002年卒」というグループがありますので、是非ご参加ください。https://www.facebook.com/events/71249437561222/ (黒石直輝)

8月20日幅広い年代のOBが集まりました。116代を除く115代〜120代という20代のOBが、急遽、今年海城祭及び今後のOB会の運営について話し合いました。OB会では①名簿や連絡網の強化②文化祭でのブランディング③現役生サポート体制を整える④OB同士の絆をつくるの4つを考えていること。急な呼びかけにも関わらず、盛り上がりすぎて集合写真を撮り忘れる痛恨のミス(ー)も起きました。

OBが卒業後も海城祭と関わるという流れを作ったのは91代柳田さんです。時代が流れ、OB会を94代国井の呼びかけで組織してから18年が経ちました。OB会の会長職は106代の齊藤くんを経て、現在は115代の津村くんを引き継がれ

ています。OBたちは、自分たちが熱中した海城祭が時代を経ても海城の看板行事とされていることに誇りを感じているとともに、後輩たちが自分たちと同じかそれ以上に大切な経験ができることを心より祈っています。(昭和62年卒 国井信男)

OB会だより

文化祭実行委員会・生徒会OB会 海城祭・OB会運営を協議

分科会報告

【工業会】

模擬裁判開催

東京弁護士会と海原工業会の協力のもと、恒例となった模擬裁判が10月21日(土)に開催されました。シナリオと呼ばれる前提条件を踏まえて、進められる模擬裁判には海城生が検察役・弁護役・裁判官役に分かれて火花を散らします。被告役は平岡広輔弁護士H14卒・海原工業会が担当。無罪とも有罪とも取れる迫真の演技で、おおいに裁判を盛り上げました。裁判の結果は僅



差で被告無罪。平岡さんは後輩たちの奮闘で罪に問われることはありませんでした(笑)。「推定無罪と言われているが、起訴されたらほとんど有罪と言われている。なぜですか？」模擬裁判が終わってから海城生たちは鋭い質問を弁護士の方々にぶつけていました。海原士業会では司法をはじめとする士業全般を目指す海城生・若手OBを応援する取り組みを続けています。(広報委員会)



【海志会】 懇親会開催

4月21日、現職の政治家や公務員等から構成される海志会の懇親会が霞が関の東京倶楽部ビルディング「ほつり霞が関店」において開催されました。当初は、財務省や経済産業省など、霞が関でも比較的海城OBが多く存在する省庁のO



B会ということで計画された今回の懇親会。直前になって、宮沢会長の大学時代の同級生の下で働いている女医さんも参加することとなり、異業種交流会の様相も呈した会となりました。海城OBにも当然医師の方は多数おられますし、投稿者(齊藤)も個人的に数名知っています。しかし、それらの方と具体的に仕事の内容について話を聞くことはあまりありません。それだけに、今回医師、それも女医さんの仕事について具体的に話を聞いたことは非常に新鮮でありました。

本会への入会をご希望の方は、海原会ホームページの「海原会へのお問い合わせ・ご連絡」からご連絡ください。なお、ご連絡の際は、必ず勤務先をご明記ください。(平成11年卒 齊藤亮輔)

海外海原会

「バンコク」 歓送迎会

2017年10月5日、横山さんの送別

会、長野さん、鈴木さんの歓迎会を兼ねてバンコク海原会を開催しました。国井先輩も日本から駆けつけて頂き、125周年記念誌を眺めながら昔話に花が咲きました。

バンコク海原会はラグビー部と今は無き文A(私大文系コース)出身者が多いという結論に達し、会員たちは家路に着くのでした。

海原会会員の方々におかれましてはバンコクにお寄りの際は是非一声お掛けください。

大歓迎お待ちしております。

(平成7年卒 宮本裕一郎)



「ジャカルタ」 近藤会長帰任

ジャカルタ海原会の近藤会長(S52卒)の帰任に伴い、6月13日(火)にジャカルタの繁華街ブロックMにある「遊蔵」にて送別会を行いました。初期から会の中核となつて皆をまとめて頂いた功労者の



帰任で、名残惜しい限りです。近藤会長に差し入れて頂いた日本酒と焼酎を皆で堪能しながら、夜が更けるまで談笑し、日本の寿司屋での再会を固く約束いたしました。尚、新しい会長には大崎様(S56卒)が就任されました。今後も皆でジャカルタ海原会を盛り上げてまいります。(平成5年卒 服部康治)

「シンガポール」 周辺国のOBが集合

「同期がシンガポールに赴任します。現地の海城OBの方との引き合わせをお願いします」ロサンゼルス在住の大畑統之さん(H17)から連絡をいただきました。さっそく現地の海城OBと連絡を取り合つたところ、あれよあれよと話が大きくなり、11月18日(土)シンガポールのオーチャードにある「寿司来村」にて、東南アジア各国で活躍する海城OBが集合。第3回ASEAN海原会総会と名

を打ち、旧交を温めました。

この度、日本からシンガポールに赴任されたのは甲斐健之介さん(H17)。お迎えするASEANメンバーとしては、齋藤貴年さん(H03)はジャカルタでゴルフの後に飛んできました。服部康治さん(H05)は出張中のバンコクから。小市琢磨さん(H05)はブリンペンから週末の休暇を利用して。高橋良さん(H05)はシンガポールでの研究の合間を縫って。私、国井信男(S62)はどきどきに紛れて東京から。が集合しました。

シンガポールは東南アジアの(へソ)にあたり、集まりやすい都市です。また、直行便で築地と繋がっているのも、きちんとした和食が食べられるのも魅力。今回は6人の集合でしたが、東南アジアには大都市ごとに海城OBのコミュニティが存在し、密に連絡を取り合っています。

現地に赴任している、これから赴任する、ちよつと用事で行くと思う。何かありましたら海原会にご連絡ください。対応できるかもしれません。

(昭和62年卒 国井信男)



野球部の現役やOB会の情報を掲載していますが、ログインにはユーザー名とパスワードが必要です。野球部OB会関係者でログインができない方はトップページの問い合わせフォームからお問い合わせください。野球部OB会のイベントとしては、直近では現役生を交えたソフトボール大会が1/8(月)にあります。
<https://kaijo89.com/>

ホームページの活動レポートから会報のバックナンバーの閲覧ができます。
閲覧にはパスワードを設定しております。ユーザー名はkaihouです。
パスワードは2017年12月14日までは「k125.U95」2017年12月15日からは「San9obaba」になります。

会員の方以外にも、各分科会の入会要件を満たす方は参加が可能です。
参加を希望の方は当HPの「海原会へのご連絡・お問い合わせ」よりお問
い合わせください。

(国井信男記)

高橋有仁 (H 05)

16